

GM 通信

2022年10月16日
小学生・中学生 Vol.3
音更ハンドボールクラブ
全十勝中学校ハンドボール部

JOC、会長杯、お疲れ様でした！

2つの大会が連続しての開催だったので大変でしたが、特に、JOCでは、中学生と小学生保護者様にもご協力いただき、中学最高峰のJOC大会の十勝初開催。滞りなく終わることができ感謝しております。

私たち指導者は、このJOC大会を特に大切に思っています。なぜなら、ほとんどの子供達は小学生から一緒に頑張ってきて、中学3年生になり、このJOC大会が最後の大会になります。どんな思いでこのJOC大会に立ち向かい、そして、どんな思いで大会を終えるのか、このJOCが集大成の舞台だからです。

では、今年の3年生はどうだったかという、本当に心から素晴らしい6人でした。

以下、ラストミーティングで3年生に贈った言葉の一部をご紹介します、JOCを振り返りたいと思います。

※ラストミーティングでは中正監督をはじめ、指導者みんなが3年生へ素晴らしい言葉を贈り、思い出話に花が咲き、時間をオーバーしてしまいました笑 すいません！

「蒼空」

小学生の時は、エースで得点王、でも中学生では怪我に苦しみ、中学1,2年生は満足にプレーできませんでしたが、1年前にキャプテンになってからは、立派にチームを引っ張り、そらがないと練習も成り立たないような素晴らしいキャプテンになりました。

最後のJOC、相手は函館選抜、そらが対峙するのは、世代No.1プレーヤーの函館のエース。でも、試合を観た方はこの選手の凄さや怖さを感じなかったと思います。それは、そらが守り続けたからです。

ディフェンスに1番必要なのは気持ち、最後の試合でその気持ちをみせた蒼空、立派なキャプテンでした。

「陽太」

小学生の時はキャプテンとして、そして唯一のサウスポーでチームの得点源として活躍したひなた。

中学生になり、よりパワーと高さが求められ、体の小ささに苦しみました。小学生では決まっていたロングシュートが中学生では決まらず、それでもロングシュートにこだわり、努力を重ねてきました。

最後のJOC、函館選抜相手に打った、この5年間の思いを込めたロングシュートは、見事に決まり続けました。チーム最多の8得点、陽太は立派なサウスポーエースでした。

「快晟」

小学生の時はディフェンスの柱、高い運動能力で試合でも躍動し中学生では2年生から早くもエースとして活躍していました。

いよいよ自分達の代になり、これからというところ、持病の喘息に苦しみ、新人戦大会では結果を残せず、そして監督との衝突。ハンドボールをやめようとも考えたかいせい。それでも

喘息を克服し、メンタルでも強くなり、奮い立った後のかいせいは無敵のエースでした。

最後のJOC、「下剋上はエースの一撃からだぞ！」と約束した通り、先制点のロングシュートを見事に叩き込み、チーム最多の8得点。快晟は立派なエースでした。



「優月」

小学生の時は不思議ガールで眠り姫、何を考えてるのかわからないことが多々あり笑。そんなゆづきでしたが、小学生最後の大会で悔し涙を流していたのが忘れられません。

その悔しい思いを胸に中学生でもハンドボールを続けたゆづきですが、怪我に苦しみます。1年前にキャプテンに指名されますが、満足なプレーが出来ないながら、まわりに支えられ、踏ん張り続けて辿り着いた JOC。最後の最後まで苦しい試合ばかりでしたが、決勝の函館選抜戦の最後に放った、気持ちも力も全てを込めたシュート、決まった瞬間は感動でした。

ゆづきらしく最後までキャプテンを務めました、お疲れ様。

「心珀」

小学5年生からゴールキーパー一筋。負けん気の強さと高い運動神経で、ゴールを守り続けたこはく。キーパーは最も過酷なポジション、練習でも試合でも涙を何度も流しながら頑張り続けてきました。中学3年生になり、大村コーチと出会ってから飛躍的にセービング技術が高まりました。



JOC 準決勝の釧路戦。苦しい場面でスーパーセーブを連発し、チームを勝利に導き、迎えた決勝の函館選抜戦。前半から劣勢に立たされますが、ハーフタイムでの中正監督からの言葉を、こはくは1番冷静に受け止め、後半、さらに覚醒します。函館選抜のシュートをことごとくシャットアウト、小学生からのライバル達のシュートも見事に止め、会場がどよめきました。こはくは間違いなく今大会 No.1 ゴールキーパーでした。

一緒に何度もガッツポーズしたのは最高の思い出です。こはく、お疲れ様。

「蘭」

小学生の時はキャプテンとしてチームを支えたらん。声が出なくて悩んでいたけど、それでも毎回毎回、自分の精一杯の声を出し続け、中学3年生の時には男子以上の声が出るようになりました。最後の JOC でも、ディフェンスの柱として、体を張り、声を出し続けて戦いました。

決勝の函館選抜戦では、足をつってしまい、ベンチに下がりましたが、気持ちで復活。最後の最後に、キーパーこはくが止めて、らんが速攻でシュートを決めた瞬間は、胸にこみ上げるものがありました。

らんの頑張りや、これからもチームの財産です、お疲れ様。

この3年生6人には、これからの人生、たくさんの困難が待っていると思います。でも絶対に乗り越えられます。なぜなら、5年間努力を重ね、それだけでなく、最後の試合でその成果を存分に発揮したからです。

中学生ハンドボールの試合は、前半25分・後半25分です。何年も努力を重ねてきても、その発揮できる時間はたった50分しかありません。最後の試合にあたり、「悔いのない試合をしてほしい」や「出し切ってほしい」という言葉がありますが、世の中にこんなに難しいことはないと思っています。でも、この3年生6人は見事にやってくれました。

努力を重ねるだけでなく、成果も出す、これから社会に出て、どんな状況になろうと、この6人は絶対に力を発揮します。

クラブ・チームの歴史をスタートしてくれた今の高校生からのバトンを受け継ぎ、その歴史を一段上のステージに上げてくれた3年生6人、6人との思い出は最高の宝物で、感謝の気持ちでいっぱいです。

これから、まずは人生の中の一つの勝負どころ、高校受験、みんななら絶対勝てる！頑張れ！！